

ASEP

(Asian Student Exchange Program)

交流の歴史

(The history and development of ASEP)

市村 信昭

Nobuaki Ichimura

株式会社 内田洋行

UCHIDA YOKO Co.,Ltd.

(ASEP& WYM 協賛・協力)

(Supporting and Sponsoring of ASEP& WYM)

1. ASEPの概要

◆2000年12月24日 台湾 高雄市でスタート

1999年、2000年夏 名古屋でのWorld Youth meeting(WYM)開催を受けて参加台湾チームの李（シルビア）先生（高雄女子高）の発起で同様イベント・姉妹イベントとして2000年12月に台湾・高雄市で開催

◆運営組織

日本側：WYM実行委員会

台湾側：AJET (Advanced Joint English Telecommunication)

高雄市にある国立中山大学の陳教授が組織する地元高校を中心としたオンラインでの英語科 学習グループ

：2007年より高雄市教育局主催へ

1. ASEPの概要

◆ASEPスケジュールモデル (ASEP2017スケジュールを参考)


1 2月下旬開催 (12/24頃:各校冬休みから)

ホームステイ経験 (日本参加者にとって)

コアイベント以外は各校・交流ホスト校との個別の動き

学校によってはDay1とDay2の間にプラス1日追加

Day 1	Day 2	Day 3	Day 4	Day 5	Day 6
	ASEP公式期間				
出発 (関空) (中部) (羽田)	マッチ校交流 プレゼン仕上	マッチ校交流 プレゼン仕上	記者会見 教員 フォーラム	プレゼン大会 フェアウェル パーティー	生徒ピックアップ 帰国
高雄直行 または 台北フィー ルドワーク	ホームステイ	ホームステイ	マッチ校交流 プレゼン仕上 ホームステイ	ホームステイ	

 : 公式コアイベント

1. ASEPの概要

◆ASEP（参加の）目的

構成主義や体験学習理論を基にした、英語による協働プレゼンテーション作成、発表の実施

ICT利活用を基にした、ネットを通じての情報リテラシーを育成する継続性活動の実施

アジア諸国を中心とした国際コミュニケーション力の涵養を基にした、リアル（高雄での）な国際交流活動の実践

2. ASEPのあゆみ

◆活動の発展

2000年

インターネットでの事前交流 (CU-SeeMe, メール)

2001年

日台参加校別個別テーマでの英語プレゼン

2002年

協働でのWebページ作成

2003年

ホームステイ 交流会

2004年

インドネシア・マレーシア・タイ・韓国など日台以外のアジア各国参加

2005年

プレゼンテーマの設定
“Cultural Mosaic” (ASEP2004のテーマ)

2006年

協働英語プレゼン実施
“ICP(International Cooperative Project)

ペア校の通年交流化

2. ASEPのあゆみ

◆活動の発展

2007年

高雄市教育局の主催へ（2006年までは後援）

2008年

演台をなくし、原稿を見ないでプレゼンのTEDスタイルへ

2009年

プラチナ/ゴールド賞の緩いコンペティション導入

2010年

SNSを活用した通年交流促進（Skype FaceBook LINE）

2011年

ペア校交流の成果として、姉妹校締結等の連携強化

2012年

日本側参加者が100名越えへ

2013年

2030年までの持ち回りホスト校決定

2014年

2015年

会場（聴衆）とのインタラクションを考慮したプレゼン後のQ&Aの導入

2016年

2. ASEPのあゆみ

◆テーマと幹事校（会場校）（テーマ設定開始の2004年以降）

- 2004年 “Cultural Mosaic”：三民職業高校
- 2005年 “Our earth, Our home”：三民職業高校
- 2006年 “One Planet”：中正予備学校
- 2007年 “New World Order”：三民職業高校
- 2008年 “Our New Lives”：明誠高校（St. Paul）
- 2009年 “Saving Our Future”：明誠高校（St. Paul）
- 2010年 “A Better World”：三民職業高校
- 2011年 “Justice and Civil Rights”：三信家商高
- 2012年 “Competition and Cooperation”：立志高校
- 2013年 “Unsung Heroes/Heroines”：高雄商業高
- 2014年 “Save the Doll named…”：高雄女子高
- 2015年 “Traveling and Learning”：高雄高校
- 2016年 “Pop Culture and Life”：明誠高校（St. Paul）

3. ASEPの目的とねらいの変遷 (日本側グループ)

- ・インターネットを通じた国際交流
- ・ホームステイ等Face to Faceの日台リアル交流

- ・英語プレゼンのブラッシュアップ
- ・コミュニケーションとしての「英語使用の場」

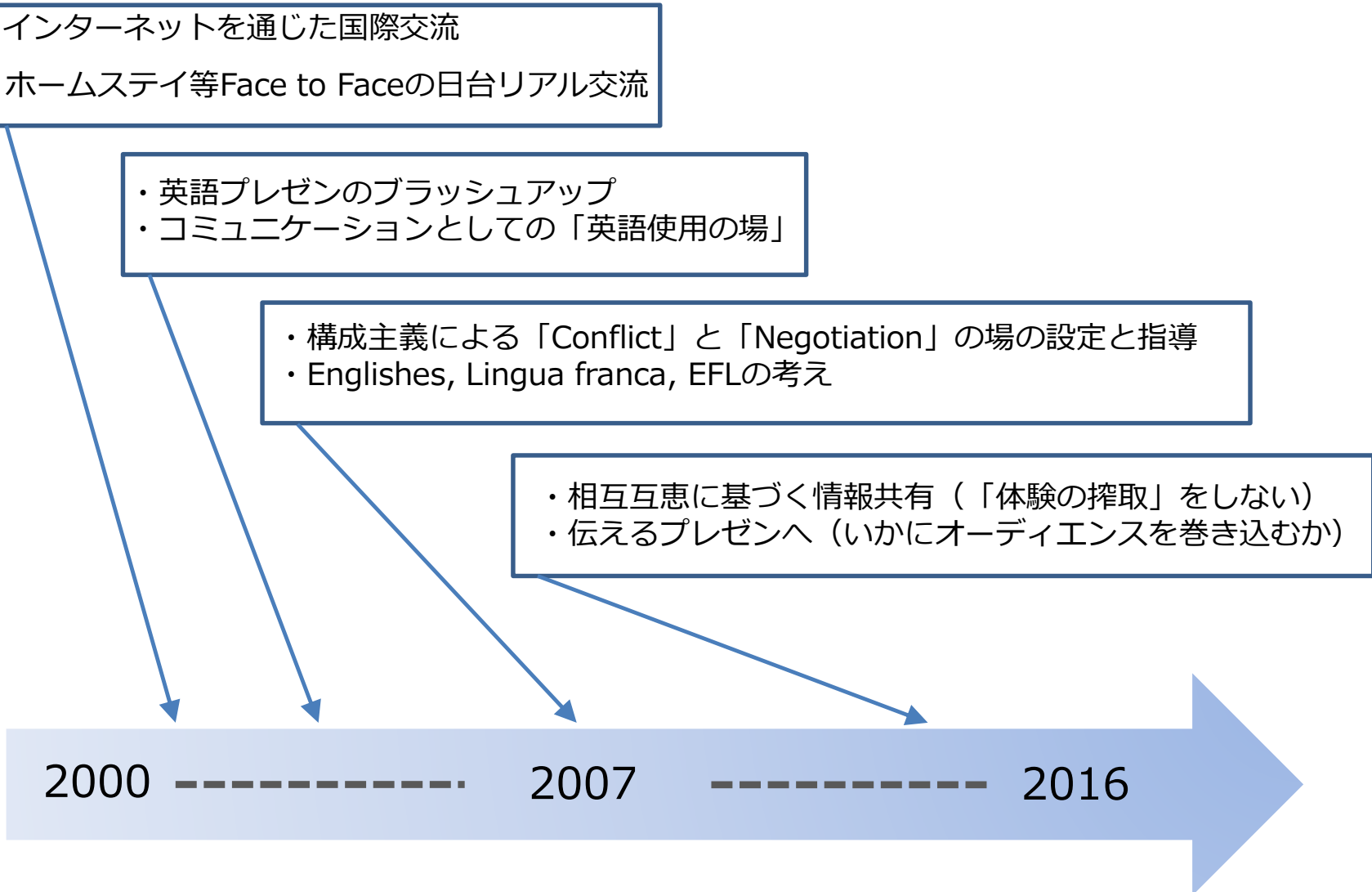
- ・構成主義による「Conflict」と「Negotiation」の場の設定と指導
- ・Englishes, Lingua franca, EFLの考え

- ・相互互恵に基づく情報共有（「体験の搾取」をしない）
- ・伝えるプレゼンへ（いかにオーディエンスを巻き込むか）

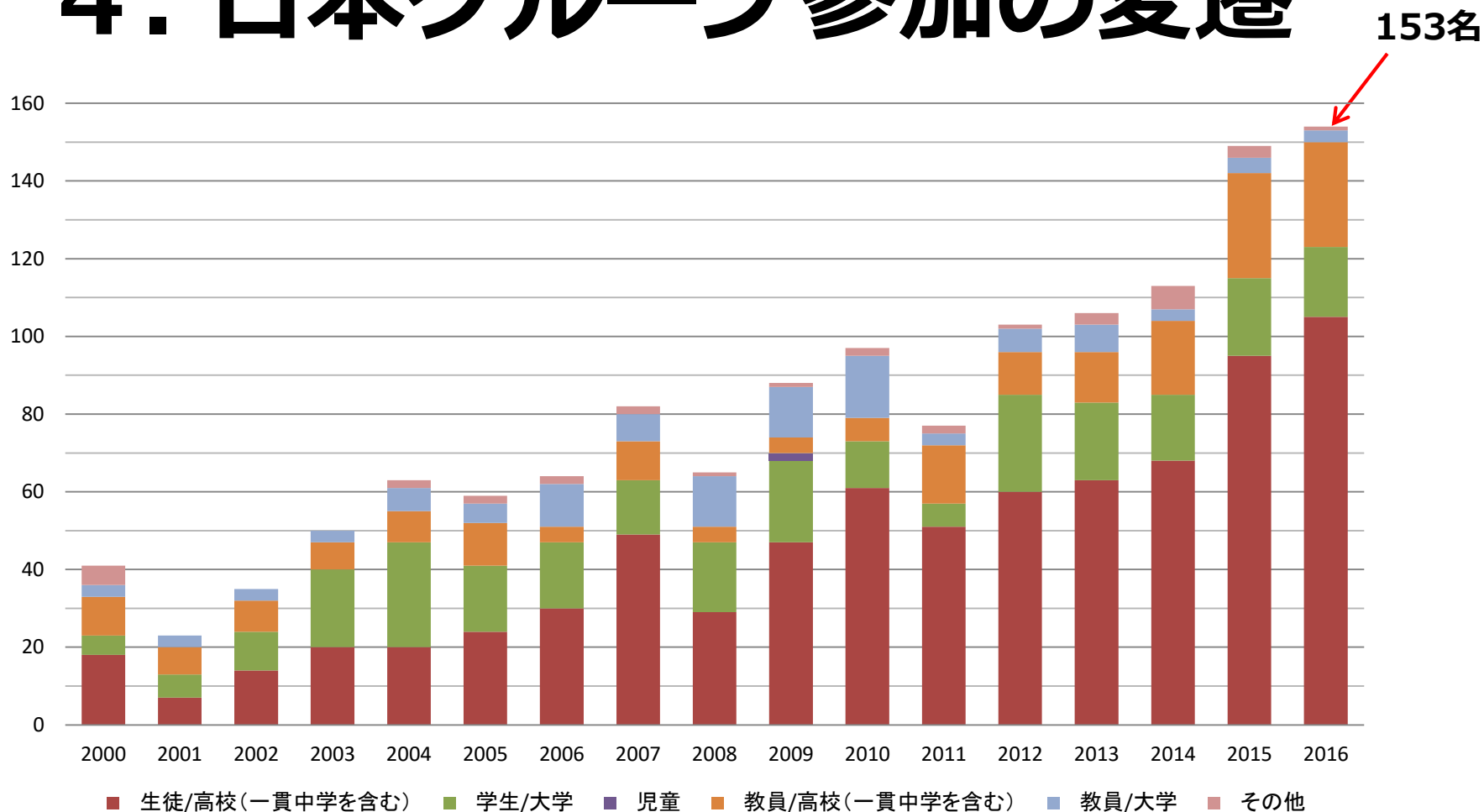
2000

2007

2016



4. 日本グループ参加の変遷



17年間で

生徒・学生；のべ1,036名

教員等；のべ332名

合計 のべ1,368名 参加

5. なぜASEPなのか (参加レポート・報告より)

◆学生/生徒にとって

- ・ 共通の話題 (アニメ・マンガ・日本文化等) での英語発話のしやすさ
- ・ お互いEFLとして英語を使うが、台湾生徒が少しレベルが上で良い目標となる
- ・ YWM互恵でのホームステイホスピタリティなど、初体験の海外でも生活体験の負担が少ない
- ・ 協働英語プレゼンテーション発表という明確なゴールと成果がある
- ・ 将来のco-workerとしてのアジア圏の同世代と直に交流できる
- ・ 日常会話として、自身の意見を言う場としての英語使用の環境である
- ・ ASEP/WYM期間外でも、ICT(LINE,Skype,Facebook等SNS)を通じて英語コミュニケーションによる英語学習モチベーションが持続できる

5. なぜASEPなのか (参加レポート・報告より)

◆ 教員にとって

- ・ 「教室」以外に英語コミュニケーションの実践的場を提供できる
- ・ 手段としてのICT活用力や英語コミュニケーション能力を体験させさせることができる
- ・ 日本参加の他地域・他校種の教員、あるいは現地教員と英語指導等情報共有ができる (する機会がある)
- ・ PBLやアクティブ・ラーニング実践の場として、教員の指導におけるファシリテータとしての係り方を体験できる
- ・ 発表自体を含む成果物、報告レポートがWeb上に保存され、メーリングリスト上などで経験したことが公開共有されているので、学内等で活動の周知がしやすい

6. ASEP参加校実績

(2000年~2016年 教員のみ参加も含む、校名は参加当時)

西那須野町立南小、飯能市立加治東小、福井市立春山小、三重県立みえ夢学園、三重県立員弁高、三重県立四日市西高、三重県立川越高、名古屋市立西陵商業高、名古屋市立若宮商業高、南山国際高、名古屋市立北高、名古屋市立名古屋商業高、福井県立福井商業高、福井県立若狭高、福井県立丸岡高、福井県立若狭高、福井県立勝山南高、立命館中高、立命館宇治中高、立命館守山中高、華頂女子中高、ノートルダム女学院中高、奈良育英中高、奈良県立法隆寺国際高校、石川県立鶴来高、石川県立小松商業高、石川県立金沢向陽高、沖縄尚学高校、大阪市立市岡商業高、大阪市立扇町総合高、大阪市立東高、大阪夕陽丘学園高、羽衣学園高、大阪光星学園中高、関西大中等部高等部、大阪教育大附属平野高、大阪府立長吉高帝塚山中高、神戸大学附属中等教育学校、兵庫県立西宮南高、

東京国際大、帝京科学大、愛知淑徳大、日本福祉大、宇都宮大、関西大、立命館大、京都大、近畿大、福井県教育研究所